

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 17 日作成)

小委員会名	空間データ利用技術普及小委員会	主 査 名：依田浩敏 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：村上公哉
設 置 期 間	2011 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	GIS (地理情報システム)、リモートセンシング技術等の空間データ利用技術の都市 (環境) 計画、防災計画等への活用活性化を行うために、技術の習得に必要な基礎的知識の検討および標準カリキュラムの検討を行う。 初年度：・小委員会の活動方針の検討・委員の研究内容の紹介・外部学協会における動向調査 2 年度：・GIS、リモートセンシング等空間データ利用技術の習得に必要な標準カリキュラムの検討	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 主査：依田浩敏(近畿大学) 幹事：吉田聡(横浜国立大学) 委員：飯野秋成(新潟工科大学)、岩井一博(信州大学)、川崎昭如(東京大学)、川村広則(東北文化学園大学)、客野尚志(関西大学)、小松義典(名古屋工業大学)、斉藤郁雄(熊本高等専門学校)、須藤諭(東北文化学園大学)、田中貴宏(広島大学)、松岡昌志(東京工業大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2011 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 日本建築学会における空間データ利用の取り組み調査 2. 第 1 回都市環境デザインフォーラムにおいて、空間データ利用技術に関連する提案を行った。 3. 空間データ利用技術の習得に必要な標準カリキュラムの検討は、利用者である地方自治体の考え方も参考にする。新たに (次々年度から活動予定) 設置される小委員会で審議。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 地方の委員が多いため、電子会議を実施せねばならない。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2012 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・**最終年度評価**)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>GIS (地理情報システム)、リモートセンシング技術等の空間データ利用技術の都市 (環境) 計画、防災計画等への活用活性化を行うために、技術の習得に必要な基礎的知識の検討および標準カリキュラムの検討を行うことを目的として設置した。</p> <p>日本建築学会環境工学分野における空間データ (リモートセンシング、地理情報システム) 利用は、クリマアトラスの作成、都市熱環境の把握、エネルギー消費分布など、多岐の研究分野にわたるようになってきている。委員は大会、支部研究発表会、論文集等で研究成果を公表した。</p> <p>2012年11月14日に開催された「第1回都市環境デザインフォーラム」(環境工学委員会 都市環境・都市設備運営委員会)において、空間データ利用技術に関連する提案を行った。</p> <p>小委員会開催回数が少なかったこと、空間データ利用技術の習得に必要な標準カリキュラムの作成に至らなかったことから、C評価とした。</p> <p>今後も、環境計画・都市計画・防災計画のための情報支援ツールのために、空間データは必須のものであることから、利用者である地方自治体などと連携を図るための方策等の検討が必要になる。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。